



うらやす

宇部市立上宇部小学校
学校だより 3月号
令和4年2月25日発行

『時』を贅沢に

校長 三輪 孝行

令和3年度も残すところ一か月となりました。

年度末を迎えると、毎年のように松尾芭蕉の『奥の細道』の一節「月日は百代の過客にして、行きかう人もまた旅人なり」を思い出します。松尾芭蕉は、過ぎゆく“時”を旅人ととらえ、自分の人生を旅に捧げ、自然体で生きた俳人です。学校も、行事やイベントばかりに固執することなく、自然体で教育活動を行いながら充実した時を過ごしたいと常々思っています。

とは言いながらも、今は3年目を迎えたコロナ禍。

令和4年度こそ、コロナウイルスが収束し、より充実した教育活動を行うことができたらと願っています。

毎日、調理室に給食を取りに来たり、食器を返却したりする各学級の給食当番の児童に対して、数名の教員が指導・支援をしています。学級担任の先生方は、給食当番児童の引率や各クラスの給食準備を行っていますから、担任以外の先生を中心に、アルコール消毒を手につけたり、返却する食缶のお手伝いをしたり、または、黙って当番の仕事をするように声をかけたりしています。



月曜日、当番児童の給食着を見ると、洗濯したばかりの給食着やアイロンのかかった給食着を多く見かけます。お家の人が整えてくれた給食着を誇らしげに着ているようにも見えます。きっとそれは、お家の方が“時”を使って、きれいに整えてくださったおかげです。

私自身も時間に追われる毎日を過ごしていますが、次代を担う子どものために、給食着を一例として、“時”を贅沢に使ってみてはいかがでしょうか。贅沢とは、時間の長さではなく、中身の濃さのことです。

お家の人が整えてくれた給食着を着ている子どもを見て、そのことを喜びに感じているだろうなと思いつつ、調理室前に立ちました。

芭蕉の言うように“時”の過ぎゆくのは早く、1年の終わりを迎えます。

18日は卒業式、25日は修了式。子どもたちはそれぞれ立派に進学・進級します。

保護者、地域・見守り隊の方々のおかげで、大きな事件や事故もなく1年を終えられることを嬉しく思います。

どうも ありがとうございます。